

# 28年度 八千代こども親善大使がバンコク都を訪問

八千代こども親善大使一行が1月25日～2月1日7泊8日の日程で、タイ王国バンコク都を訪問しました。

## 八千代こども親善大使

今年度のこども親善大使は、市内の小学5年生と中学2年生を対象に実施した国際平和作文コンクールの応募者3,165人の中から選ばれた小学生6人と中学生4人です。市では、平成元年から毎年こども親善大使をバンコク都へ派遣しており、今回で28回目となります。

### 授業やホームステイなどの体験 スポーツ交流も行いました

親善大使一行は、バンコク都知事、都議会議長への表敬訪問、現地の学校訪問、歴代バンコクこども親善大使との交流会などを行い、訪れる先々で盛大な歓迎を受けました。現地の学校を訪れた際には、日本とタイの国旗を手にした4,000人を超える全校児童生徒に迎えられ、授業体験を通してタイの学校の様子や文化を学ぶとともに、現地の小・中学生と親睦を深めました。また、事前の研修で準備をしてきた日本や八千代市について伝える模擬授業やスポーツ交流を行ってきました。

親善大使は3泊4日のホームステイも経験し、家族の一員としてタイ王国の生活に触れる貴重な体験もできました。最終日にはさよならパーティーが催され、お世話になったホストファミリーやバンコク都職員に感謝の気持ちを込めて千葉県伝統芸能「バカ面踊り」を披露し、互いに別れを惜しみました。

親善大使代表  
八千代市立村上中学校2年

はな 浅岡 花菜



私は、タイで「伝えること、聴くこと」の大切さを学びました。日本とタイは言語が違います。学校交流会やホームステイなどでタイの方々とのコミュニケーションをとるときに、英単語とジェスチャーで言いたいことを伝えようと思いました。そんなとき、タイの方々には皆、耳と目と心をかたむけてくれました。

分かったときにはうなずき、分からないときには聞き返し、ものを使って私に分かりやすい様に伝えてくれました。

私はタイの方々のそんな姿に感動しました。人の話に心をかたむけ、分かったら反応し、分からなかったら質問をする。大切なことでありながら、忘れかけていたことを私に思い出させてくれました。私もこれからの生活で、人の話に心をかたむけられる人になりたいです。大切なことを思い出させてくれたタイの方々、ขอบคุณ คอปรนคาร์ (ありがとうございました)

## タイニヨムソングクロア学校の子どもたちとの交流



4,000人以上の児童に盛大に迎えられました



タイ楽器(ソー・ウー)の弾き方を教わりました



バドミントンの試合を行いました

## 都知事・都議会への表敬訪問



都知事を表敬訪問しました



バンコク都知事、教育関係職員との記念写真

## テップウタイ(歴代バンコク親善大使)との交流会



千葉県の郷土芸能「バカ面踊り」を披露



テップウタイとの模擬授業



テップウタイとの交流

お問い合わせは 指導課 481-0301へ

広告

広告